

平成27年9月 南魚沼市議会定例会  
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	10	林 茂 男
2	25	樋 口 和 人
3	2	塩 川 裕 紀
4	5	勝 又 貞 夫
5	17	中 沢 俊 一
6	3	田 村 眞 一
7	4	清 塚 武 敏
8	7	桑 原 圭 美
9	12	塩 谷 寿 雄
10	23	阿 部 久 夫
11	14	黒 滝 松 男
12	26	若 井 達 男
13	15	中 沢 一 博
14	6	佐 藤 剛
15	8	山 田 勝
16	18	岡 村 雅 夫
17	1	永 井 拓 三
18	16	寺 口 友 彦
19	11	鈴 木 一
計		19名

**【質問方式】**（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は 30 分）

**一括質問一括答弁方式：** 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。  
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

**一問一答方式：** 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

**複合型一問一答方式：** 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質問内容
1	<p><b>1 人口減少、将来の教育環境はどうあるべきか</b></p>
議席	<p>(1) 児童、生徒数の将来予想と学校数の調和はとれるのか。積極的な長期計画を立てるべきではないか。</p>
10	<p>(2) 市内プールの集約化、ジュニアクラブ・部活動等の集約化で、永続可能、かつ有為な専門コーチ陣（インストラクター）の配置を実現し、質の高い環境を。教職員や地元ボランティア対応の限界感、負担感の軽減を図るべきではないか。</p>
林	<p>(3) 目を見張る図書館での学習熱の高まりをチャンスに、地域・保護者・児童生徒が誇りを見出す、県内一の成績を目指せ。</p>
茂 男	<p><b>2 フリースタイル施設を当市の牽引力に</b></p> <p>国際大会・イベントの開催を可能とするハーフパイプ施設とフリースタイルの室内練習場の併設は、国内にとどまらず、当地がアジアにおけるメッカとなり得る。</p> <p>(1) 時宜をあやまれない。実現できるか。</p> <p>(2) 県・国に働きかけ、ナショナルトレーニングセンター化の提言を。</p> <p>(3) スポーツ（医療）クアハウスの設置、一流の筋力トレーニングルーム、石打駅等からの安全な歩道整備、陸上競技のオールウェザーの直線レーン、公認を申請しうるクロスカンントリーコース、ストリートバスケットコートなどを盛り込んだ大原運動公園（一部施設の市内分散も含めて）の第2次整備計画の策定を。</p>
（二問一答方式）	<p><b>3 もみ殻を産業に</b></p> <p>稲作農業の集約化政策の中で避けられない問題である、大量のもみ殻対応。経費軽減、地域イメージの高揚など新たな視点で廃棄や既存の堆肥化だけではない産業化を考えるべき。見解は。</p>



質問 順位	質問内容
3	<p style="text-align: center;"><b>有権者の投票環境整備の推進について</b></p> <p>昨年末の衆議院議員選挙の投票率が戦後最低となったのに続き、この春の統一地方選挙の投票率も、一部の選挙を除き戦後最低となった。</p> <p>当市も投票率向上に向けた取組みが重要な課題であるが、市長の考えを伺う。</p>
議席	
2	
<p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一問一答方式）</p>	

質問 順位	質問内容
4	1 医療再編と保健行政について問う
議席	(1) 医療再編は順調に進んでいるのか。
5	(2) うおぬま・米ねっと（魚沼地域医療連携ネットワーク）は機能しているのか。
勝	(3) 病気予防が基本と思うが、市の保健行政の指導と成果の現状はどうか。
又	2 マイナンバー制度のメリットとデメリットについて、市はどのように考えているのかを問う
貞	(1) マイナンバー制度導入の真の目的は何か。個人情報の流出を防ぎきれぬのか。
夫	(2) 住基ネットやうおぬま・米ねっととの関係は、どのような形になるのか。
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
5	<p>1 公営企業会計制度の改正を事業検証の好機に</p>
議席	
17	<p>公営企業等の会計制度が一部変わった。これは病院事業、水道事業など、投資効率が低かった南魚沼市にとって、人口・税収が縮小する時代を見据え、的確な投資を目指すには、ある意味好機といえよう。とりわけ多額の債務を抱えつつも「新水道ビジョン」を検証する水道事業にとっては課題があまりにも大きい。同ビジョンの見通しについて、戦略的な意義を改めて問いたい。</p>
中 沢 俊 一  (複合型 一問一答 方式)	<p>2 市のプラチナタウン構想に輝き見えず</p> <p>大手シンクタンクによる電撃的な構想打診から、市が南魚沼版プラチナタウン構想に着手して間もなく1年。検討会議等は回を重ねたが「事業」としての魅力が見えてこない。一方で営利に疎いといわれる行政がコンサルタントの掌で躍起になっている姿が、日を追って鮮明になる感がある。“三方四方共に得”という姿は事業主体（営利企業）が他の同趣旨の企画を圧倒する競争力を持って、はじめて現実化するものだし、そうでなければ絶対に手を出さない。</p> <p>(1) 移住 400 人では雇用、税収は増えず、経済効果は極めて低いと見るが、市の試算はどうか。</p> <p>(2) 医療費・介護費用の市民負担が、どう回避できるのか。</p> <p>(3) 戸建てにこだわり、コスト、雪対策、介護効率、転売等の面で商品価値が低い。</p> <p>(4) P・D・C・Aの前に「S」（自前の徹底した調査）を入れよ。</p>

質問 順位	質問 内 容
6	<p>認知症になっても安心な世の中をつくることについて</p>
議席	
3	
田 村 眞 一  （一問一答方式）	<p>「予防も大事だが、認知症になっても安心な世の中をつくることに力を注いでほしい」ある認知症の女性の言葉である。認知症を完全に防ぐことは難しい。年を重ねるごとに自分がこれからどう生きていくのか、社会がどうあったらいいのか。以下、市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 認知症予防の取組みの現状、教訓とこれからの課題は何か。</p> <p>(2) 「安心して徘徊できる町」福岡県大牟田市の取組みを我が市にも生かせないか。</p> <p>(3) 若年性認知症対策について、現状把握、特化した相談窓口の設置、雇用確保は。</p>













質問 順位	質問内容
12	<p style="text-align: center;"><b>当市の雇用関係を伺う</b></p> <p>(1) 9月末には、定住自立圏の中心市宣言が予定されている。中心市として雇用創生にどう取り組むのか。</p> <p>(2) 南魚沼版CCRCでの、若者の雇用創出はいかに。</p> <p>(3) 南魚沼市企業立地促進条例の成果と今後の取組みを伺う。</p>
議席	
26	
<p style="text-align: center;">若 井 達 男</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p>	

質問 順位	質問内容
13	<p><b>1 観光の力で地域活性化を</b></p>
議席	
15	
中 沢 一 博  (複合型一問一答方式)	<p>人口減少が進む中で、南魚沼市の大きな柱となる観光は、旅行業、宿泊業、輸送業、飲食業、土産品業などすそ野が広く、経済効果を始め、地方における安定した雇用を創出する極めて重要な施策の位置づけとなる。そこで、当市の観光戦略の具体策を伺う。</p> <p>(1) 当市の観光産業における経済効果の実態は。  (2) プレミアム宿泊券の考え方について  (3) 誘客戦略としての、大型バスへの補助制度について  (4) スポーツ・ツーリズムにおける公共施設の利用システムと使用料について  (5) 魅力ある街づくりへ、公衆無線LANサービスの整備について  (6) 訪れた観光客に喜ばれる、地域一体での「おもてなし」の取り組みについて</p> <p><b>2 幼児教育無償化の実現について</b></p> <p>少子高齢化、人口減少の同時進行という厳しい将来見通しに対し、真正面から受け止め「今なすべきこと」を考え、断行することが求められている。少子化は将来、お金を稼ぐ人が減ることを意味する。それは、税金や社会保険料を納める人の減少につながっていく。</p> <p>当市においても、財源を確保しながら、出産手当の充実、乳幼児医療費の助成、不妊治療・不育治療の助成、放課後児童クラブの拡充等、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に取り組んでいるところである。そこで当市の子育て支援、成長戦略の具体策について伺う。</p> <p>(1) 第3子以降の保育料等の無償化について  (2) 第3子以降の保育園等、一時預かりなどの無償化について  (3) 子ども・乳幼児医療費助成事業の支援強化について</p>







質問 順位	質問 内 容
16	<p>総合計画策定に当たって</p>
議席	
18	
岡 村 雅 夫  (一問一答方式)	<p>第2次総合計画、地方版総合戦略、南魚沼版CCRCの策定・推進のスケジュールが示された。揃って年度内に完成の予定だが、膨大な事務量と高度な能力が要求されると考える。議会でも特別委員会を設置して対応していくこととなった。策定の段階から議会・市民を巻き込んで計画策定がされ、みんなの計画になってほしいという立場から認識を伺う。地域完結型社会をめざしてきたが、10年を省みての所見を伺う。</p> <p>(1) 南魚沼市が勝っている、自慢できると考えているものは。</p> <p>(2) 南魚沼市が劣っている、不足していると考えているものは。</p> <p>(3) 市民の満足度は如何と考えているか。</p> <p>(4) CCRCがメインの位置付けのようだが、市民に分かりやすい説明を示せ。</p>

質問 順位	質 問 内 容
17	<p style="text-align: center;"><b>地方創生を見据えた子育て環境の整備について</b></p>
議席	
1	
永 井 拓 三	<p>我が市は現在、人口減少問題を抱えながら地方創生の一環として移住定住を促進する政策を打ち出している。元々の居住者は様々な機会を求め首都圏へと流出し、一方で国は首都圏の人口を地方に分散させたいという矛盾を抱えながら市政を運営しなければならない。先日、人口減少対策調査特別委員会で示された市民アンケートの結果を見ても、南魚沼市の「自然」は良くも悪くも市民の生活に大きく関わっていることがよく分かった。当然、首都圏からその「自然」を求めて移住してくる方も少なくはないだろう。我が市にとっての地方創生の大きな鍵が自然環境にあることは、よく理解できる。</p> <p>一方で、市民の求めている政策の上位には「子育て支援」もある。移住者の家族構成等を考慮すると、子育て環境を今よりも更に充実させない限り、子育てに関することは生活の大きなハードルとなり、また首都圏へと戻ってしまいかねない。また、元々の居住者も家族構成が移住者と同じ状況であれば、子育て環境が大きな障害となる可能性も十分に考え得る。故に子育て政策も地方創生の大きな鍵となることは言うに及ばない。</p> <p>また、国策である女性の社会進出に対して、市は本当にその意義・意味を理解した上でその支援をしなければならない。その部分をしっかり固めてこそ、子育て世代は初めて移住定住を考え、首都圏への流出を抑えられるのではないだろうか。</p> <p>そこで以下のことを市長に問う。</p>
(二 問 一 答 方 式)	<p>(1) 現在の「一時預かり」の制度は果たして100%機能しているだろうか。</p> <p>(2) 公立保育園の正規職員と臨時職員の雇用割合は、果たして正常な状態であろうか。</p> <p>(3) 女性の職場復帰や、雇用にあたり、今の子育て支援に関する制度は適正であると考えているのか。</p>

質問 順位	質問 内 容
18	1 教育・文化について
議席	教育環境充実のための適正規模について、考えをうかがう。
16	2 環境・共生について
寺	生ごみを減らすという意識を高める「使いきり、食べきり、水きり」の3きり運動を推進する考え方について
口	3 産業振興について
友	担税力のある市民を増やすための施策をどう考えるのか。
彦	4 行財政改革・市民参画について  マイナンバー制度導入で税を払う側の情報が一層明確になることに合わせて、市の補助金明細情報明確化の考え方についてうかがう。
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
19	<p>1 市民憲章の「ものづくり」について</p>
議席	
11	
鈴木	<p>建築において、景気は今底辺以下の状況である。家づくりにおいて大事な職人が消滅してしまうほど仕事がない。現状では仕事の激減で大事な若い職人が育たない。一自治体でもがいても、どうにもならないことは理解している。しかし、このままで待ってもいられない。木造建築における職人を増やすには、地元の特化した施策が必要と考える。市で現状をどう把握し、どう展開していくか伺う。</p>
木	<p>2 いじめ問題について</p>
一	<p>岩手県矢巾町のいじめによる自殺で文部科学省は、いじめの認知件数の調査をやり直すよう求めてきたと聞く。当市ではどうか。そこから何が見えてきたか伺う。</p>
(一問一答方式)	